

津波災害に備えて

〔龍藏院駐車場〕

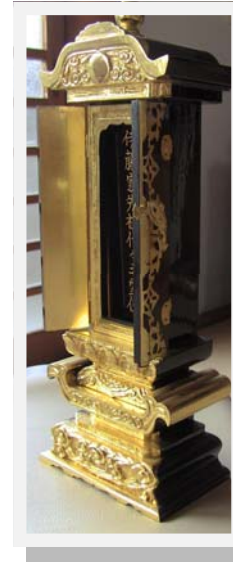
- （一）津波がくるとなったら、早めに車を避難し、海に流されることのないようご注意ください。
- （二）龍藏院境内東側の駐車場に避難できます。津波の高さ、浸水の状況により使用できない場合も考えられます。海岸近くの檀家の皆様は特に気をつけて下さい。



本堂東側駐車場
約35台程度駐車可能

〔先祖の位牌が多い場合〕

- （一）箱型の回札式位牌にきりかえて、避難にそなえることも必要です。ご希望の場合はご相談下さい。



龍藏院寺報

第二号

発行所
匝瑳市野手1824
龍藏院

へお盆を迎えて

盆とは梵語のウランバナの音写語である孟蘭盆の略で「さかさにつるされる」という意味です。仏説孟蘭盆経で、目連尊者（仏弟子の一人でモツガラナ）が餓鬼道に落ちている母を救う為積尊の教えにしたがって、七月十五日長期間の修行の終わった僧達に供養し、よく回向法要を営み母の苦しみを救ったという故事があり、これによってお盆の行事が始まりました。※ちなみに、目連尊者の母は自分の子には最高の母であったが、他人の為には一切施しの行「物施、心施、和顔施など」をしなかつたので餓鬼道に落ちたと云われます。



この行事は、日本民族のもつ固有の祖先崇拜の観念と結びつき、今は亡き先祖や有縁の人々への慕情の念をもって供養をするという行事として

（主な行事）

- ◆一月五日
新年初祈願護摩法要
- ◆一月十六日
初墓参り（寺への年賀）
- ◆二月十五日
お釈迦様涅槃絵
しやかさまねはんえ
- ◆八月十二日
盆総供養
新盆精霊特別法要
無縁精霊施餓鬼会
檀家先祖代々各霊
戦没英霊
戦災殉難者等
- ◆八月十三日
墓参（寺への盆供）
- ◆春秋彼岸
- ◆毎月一回ご詠歌研修発心会
（入会者歓迎）
- ◆会社・役所等の社員職員の
研修会申込次第随時行います。

龍藏院役員

檀頭	土屋 誠
総代	石橋 勲
総代	山崎 三郎
総代	土屋 正
総代	林 照夫
世話人	大久保 俊夫
	林 幸雄
	作佐部 明義
	熱田 康雄
	大久保 忠良
	中村 克己
	島田 久四郎
	越川 昇
	伊藤 為吉
	伊藤 静
	佐久間 孝雄
	大久保 庸雄
	土屋 清一
	穴澤 諒
	熱田 清三
	嶋田 一夫
	田村 彦一



龍藏院末寺・縁故寺院

- ・西小笹地区 妙福寺
住職 龍藏院住職兼任
- ・東小笹地区 慈眼寺
住職 龍藏院住職兼任
- ・東小笹地区 阿弥陀院
住職 龍藏院住職兼任
- ・登戸 吉祥院
住職 龍藏院副住職
- 縁故寺院
・大浦堀之内 蓮花寺
住職 大津永聖
(龍藏院副住職)



龍藏院所蔵「勝軍地藏」これに祈れば戦に勝つという地藏。平安時代の征夷大将軍坂上田村麻呂の信仰が有名で、以後武家の間で信仰された。ちなみに、龍藏院の將軍地藏様は災厄の消除や勝敵の利益があるとされる。

人々の生活の中に定着しています。日頃多忙な生活を送っていればこそ、お盆のときにはそれぞれの胸に浮かぶ亡き人を偲び心から冥福を祈りましょう。お互いに明日をも知れない生命を生きているというのが本当の姿です。釈尊が出家されたのも人間の持つ生命の不安や苦悩からの解脱にありました。人間として誰もが免れることができない老・病・死の苦をいかにしてのりこえるかでした。釈尊は六年間の修行の結果覚るところとなり、精神的自由を得たのであります。

諸行無常 諸法無我 一切皆苦 涅槃寂靜 四法印

(意味)
この世のあらゆるものは生滅変化してやまない。また一切は縁起的存在であるから、いかなるものにも執着してはならない。あらゆる現象は、人間の欲望に反する結果をもたらすものであって生きることそのものが苦なのである。この正しい認識こそ、あらゆる束縛・迷妄・疑惑から解脱した自由にして寂靜なる境地そのものであります。これを理解し日常生活で実践できる人は、さとりを開いた人といえます。

龍藏院住職 大津 頼有 合掌

オウム真理教事件をふりかえる

一九八〇年から九〇年初頭の日本社会は、バブル経済の絶頂期。その場の楽しみと気晴らしだけに生きようとした軽くてオシャレなことに若者の関心が集中した時代。「今の社会は何かがおかしいのではないか」という若者の隠れた思いをすくい上げて急速に成長した【オウム真理教】その実態とは何であったか。

(一) 癒しや救済の為の共同体作り。
 ・ 社会の外部に修行の共同体を形成隔離された地域にこれを作った。

・ 生きる意味、絶対の真理とは、正しい者とは何なのか。ほんとうの自分とは何か。これに対し教主がイニエーションによって癒しと救済を与えてくれると信じた。そして最終的な解答は常に教主一人のみから発せられ、これが真理へと近づくのだと信じた。カリスマ「教主」の発する言葉とエネルギーのみ集中する閉ざされた空間。

(二) 自分の中にある欲望やゆううつや悪などを見なくてすむハッピーづくめの現状認識。自分たちの方に原因があつて生じた問題を全て外部の人々の陰謀によるものと説明する仕組み。自分自身の汚れた面を見なくてすむ外部から閉ざされた修行空間。

(三) 宗教によって説かれているあるべき自分というイメージに自己を重ねる。そして自分が現実の世の中で何をしているのかということが見えなくなる。それで自分のしたことは全て正しく理にかなっているのだという自己正当化の思考で説明。

こういう次第で自分がもっている見たくない自分を見なくて済むようになり、見たい自己だけを見る。このようにして自分に対する悩みは払拭され新たな自己を獲得したように感じ、それが悟りだと錯覚するようになった。そしてハルマゲドンと称し反社会的行為、特に平成七年三月の地下鉄サリン事件を起こし、死者十三人、六三〇人が被害を受け、今でもその後遺症に苦しむ人々がいる現状。その他VXガス襲撃事件、弁護士一家殺害事件、都庁郵便物爆発事件などの犯罪が行われた。過日殺人犯の一人として手配中の高橋克也がついに逮捕され、主な犯罪者は全て検挙された。しかしながら教主のマインドコントロールが未だとけず、名称をかえて埼玉県あたりで再び組織ができつつあると報道されている。



若者が狂信的なグループに入り、人生を狂わせてしまうことのないよう、各家庭では家族の絆、職場では仲間との絆を一層昂揚させなければならぬと思う今日この頃。

住職が出席した宗派の主な行事

二月九日 於総本山智積院

宮坂宥勝元管長（長野県岡谷市照光寺）

総本山主催追悼法要（住職の配役は経頭）

六月五日 於京都（ホテルグランビア会場）

新宗務総長小宮一雄僧正（亀戸東覚寺）

就任祝賀会

六月十九日 於仙台市陸奥国分寺

総本山智積院集議村山祐俊大僧正（九十一才）

本葬儀

大導師真言宗智山派管長寺田信秀猊下

（住職と同役で永年の親交があった）



総本山智積院

龍藏院副住職「地震・津波・津波対策」について講演

龍藏院副住職は六月二十三日の発心会の際に、

地震・津波・津波対策について、檀信徒の皆様にご講演しました。八日市場青年会議所が二で行った津波対策講演会の様子やインターネット上で地震被害を予測しているサイトを紹介し、匝瑳市野手付近の地震について、また今後の津波対策について説明しました。



その際に、高齢者は避難所に行くことが困難なため、地域でも一時的に身を寄せたり、水などの当面の物資を手に入れることのできる場所があると心強い、との意見が出ました。長期的な対策は市などの大きな組織に委ねるとしても、一時的な避難場所として地域の寺院が果たす役割は大きいと言えます。龍藏院としても、信仰に配慮しつつ公益性を重視する立場から、檀家の方を対象に、井戸水や車両用の駐車場の提供、避難場所の提供を目指して準備を進めております。また物資の備蓄についても前向きに検討しております。檀家の皆様からも、お知恵がございましたらご教示いただきたいと思いますので、宜しくお願い致します。